

為替変動下のわが国農産物輸出の動向

千葉大学大学院園芸学研究科 小林 弘明

1. はじめに

わが国のフードシステムが外国で活躍する場面では、現地をターゲット市場とする直接投資がいまや主役である（下渡 [4] など）。わが国で加工された最終製品ないしは高次加工前の原産品の輸出は、かつての水産物の活躍以来、ほとんど振るわなくなって久しい。このような事態を改善すべく、近年農産物輸出が官民をあげて振興されている（農林水産省 [2] など）。

ここでの武器は価格競争力よりはむしろ独自の食味や高品質であるが、平坦な道ではない。金額ベースの農産物輸出は、2000年代には比較的順調な増加をみせた後、リーマンショックによる世界的な景気低迷と円高、そして2011年の原発事故による影響から2度の大きなつまずきを経験した。しかしこれらのネガティブな要因が収束しつつある中、今度は円安というポジティブな要因が発生している。

本報告では、2000年代から直近までのわが国農産物輸出の動向とこの間に2度見られた円高・円安局面との関係を品目別にとらえる。わが国農産物の輸出振興においてはしばしば「価格より品質・高級感」が強調される。しかし、2013年になってからいくつかの品目でみられる輸出の拡大は、輸入国のトレンド、相手国の検疫制度やわが国の生産事情だけではなく、価格要因の重要性を示唆するものかもしれないからである。本報告は、以上の問題意識による動向分析である。

2. 農林水産物輸出入統計にみる動向

1) 概況

図1と図2は、わが国農水産物輸出金額の動き

を月次および年次別に見たものである。円建て輸出金額は、リーマンショック後の世界的な景気低迷時と東日本大震災時に減少していることがわかる。大震災時（直接的な影響は原発事故によるものであろう）の影響は特に生鮮品に及んだと思われる。ただし、後者の時期は近年にない円高局面と重なっていることに注意が必要である。ドル建てに換算した輸出金額が顕著に減少したのは前者の時期であり、2010年以降直近までその水準に大きな変化は見られない。

2) 品目別の輸出動向

次に品目別の動向を見る。図3は、代表的ないくつかの農産品に関する輸出数量の動向である。

ここで緑茶は明らかな成長品目であることがわかるが、穀粉調製品（即席麺など）や生鮮品の代表であるリンゴとナガイモの輸出は、2012年までの低迷が2013年の円安局面でようやく一部が回復した程度である。緑茶と似た動向を示す品目は、清酒、ビール、ごま油などのほか、2008年から数値の得られる米（援助米を除く）がある。

前3者の動きは、菓子類や野菜（生鮮・冷蔵）など、水産物を除く他の多くの農産品についても類似のものである。近年における輸出振興策にもかかわらず、これらの品目の輸出は盛り上がりを欠き、直近の動向にしても、為替レートの変動や輸出先国の好不況による変動の一局面に過ぎないかもしれないことを示唆する。

ところで、東南アジアの高級店で日本産の果物が極めて高値で販売されているのは周知であろう。表1は、国連Comtradeデータで算出されるアジア3カ国の生鮮果物輸入単価に関する情報である。わが国の輸出シェアが比較的高い（期間中の平均で5%以上）ケースについてのみ、各国の輸入単価に対するわが国産品の輸入単価の比率を示す。

表1は、生鮮果実などが、固有の味や風味あるいは高品質を武器に輸出を振興する可能性を示唆する。しかしここでみた動向は、生鮮果物にしても、輸出振興が成功的であるとは必ずしもいえない他の多くの品目と変わらない動きであることを示している。

3. むすび

今後の円安局面は、わが国農産物の輸出振興にとって好機には違いない。農林水産物全体で見た2013年の輸出金額は5,500億円となったが、5,000億円台の水準は2007年にも達成している。

ここでは統計数値を整理することで、2000年代における動向のみを概観したが、今後はより詳細な分析を試みたい。

参考文献

- [1] 農林水産省『平成22年度農林水産物等の輸取出組み事例』。
- [2] 小口翔平「アジア諸国の生鮮果実輸入からみる日本産農産物輸出の可能性」千葉大学園芸学部卒業論文（2013年3月）。
- [3] 下渡敏治「食品企業のグローバル化と国際分業の新展開」『フードシステム研究』19(2)、2012年、pp.74-87。

[注記：科学研究費補助金 No.26450307]

	ナシ	イチゴ
中国	1.31	2.42
香港	5.46	
タイ		6.07

出典：小口 [4]。原典は国連Comtradeデータベース。

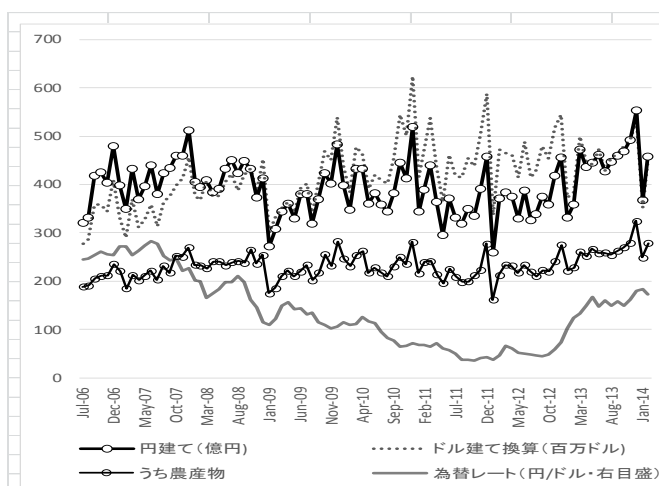


図1 農水産物輸出動向と為替レート（月次）

資料：農林水産省 HP および日銀スポットレート。

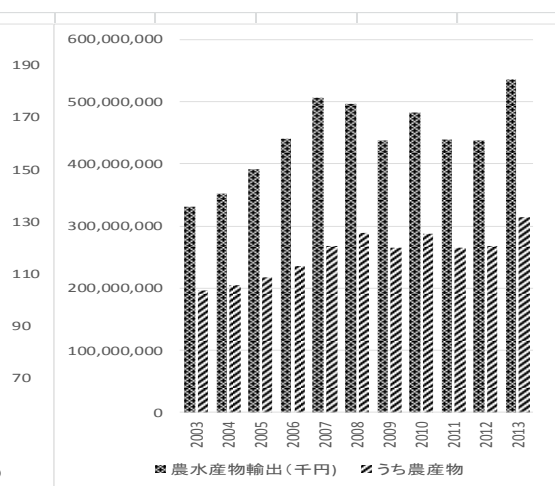


図2 農水産物輸出金額（年次）

資料：農林水産省 HP。

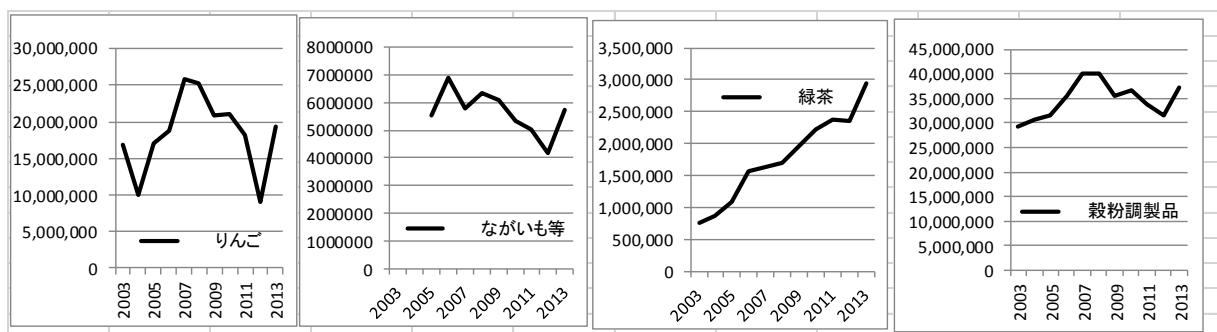


図3 代表品目の輸出数量

資料：図2に同じ